就農事例

緑川雄司氏

調査日	令和６年８月（就農後７年目）
所在地	善通寺市
経営主	緑川　雄司
主要事業	露地野菜
主要作目	ブロッコリー　２５０a タマネギ　４５a ニンニク　３０a スィートコーン　８０a ナバナ　３０a
就農タイプ	新規就農（非農家出身）
就農時期	平成30年
労働力	家族　２名（本人、妻） 臨時雇用　２名

ヒストリーあらすじ

・大阪や香川で飲食店に勤務していたが、結婚や子供の誕生を機に、転職を考えるようになった。いろいろな職業の選択肢がある中で、「農業が楽しそうだった。」という理由で、インターネットなどで農業の就職先を探し、平成26年4月から善通寺市の農家で働くことになった。

・その後、農業での自立を考え、公益財団法人善通寺市農地管理公社の新規就農者育成事業に申請し、平成27年4月～平成30年3月の3年間、職員として採用された。給与やアパートの補助も支給されつつ、研修生として農業の栽培技術を習得するため、研修先の農業者の指導のもと、日々農作業に明け暮れた。善通寺市農地管理公社とは定期的に面談を行い、機械・農地・家の確保や大型特殊免許取得などについても相談にのっていただいた。特に農地については、研修で使用した農地を借りることができ、農地の特徴をつかんでの就農だったので非常に助かった。

・平成30年4月に善通寺市の認定新規就農者として農地82aを借りてブロッコリー25a、サニーレタス25ａ、スイートコーン30a、ニンニク15a、タマネギ15aで経営を開始した。就農当初の機械については、研修期間中の指導農業者から使用貸借することができた。就農後徐々に農地の借り入れを増やし、令和5年には167aに拡大した。栽培面積もブロッコリー、スイートコーンを中心に規模拡大を図り、令和5年10月には善通寺市の認定農業者になった。その間、令和元年からはサニーレタスをやめ新規品目としてナバナを導入、令和2年にはトラクターを導入、令和3年には雇用の導入等その時々に応じて経営改善を行ってきた。

・今後は、今までの栽培の経験を活かすためにも品目についてはあまり変更せず、新品種の導入や新規作型の検討等による作期分散や品目ごとの栽培面積の検討などを行い、雇用労力の有効活用や規模拡大等自らの経営改善を目指していく。また、今まで支えてくれた方々に恩返しができるよう、地元を中心に雇用者及び研修生の受け入れや、消防団等の地域活動に積極的に参加し、地域貢献も行いたい。

エッセンス	
●研修生として過ごした経験	・当初は農業経験がほとんどない初心者で不安であったが、3年間の研修で技術や知識の習得ができた。特にリーダー的な立場になってからの経験は、就農後の作付け計画の作成だけなく、雇用者の労務管理等に非常に役に立った。また、研修期間中の体験で、改めて「自然相手の仕事の難しさ」と「収穫の喜び」「農業のやりがい」を実感した。
●地道に経営基礎固め	・就農後6年間は、無理な背伸びをすることなく、地道に規模拡大を行い、経営面積を就農当初の倍にした。また、雇用や農業機械の導入なども過度にならないよう、「無理をせず、地に足をつけて」を基本に一歩ずつ経営の基盤を構築していった。
●地域の担い手として	・農業を志して10年になった。地域や関係機関の人たちに支えられてここまでやってこれたことに感謝している。今後はいただいた恩を返すために、自らの経営改善を行うだけでなく、地域の農地を守り、農業を支える一人として、地元を盛り上げていきたい。

タマネギ収穫（茎の調製）

タマネギ収穫（友人とコンテナ）

タマネギ調製（雇用人と）

スィートコーンの状況確認

ニンニクの収穫

ブロッコリー収穫

緑川　雄司氏　ヒストリー＜課題と対応策＞

就農前

●食への想いと結婚・子供の誕生を機に農業への転職を決意

・実家は非農家。
・大阪や香川で飲食店に勤務していたが、「農業が楽しそう！」で農業を目指す。

・関心の高まりとともに、農業の技術や知識を習得するために研修先を探したところ、香川県が求人も多く、農産物も作りやすいと思い、善通寺市内の農家で雇用就農した。

●善通寺市農地管理公社の門をたたく

・就農に向けて、公益財団法人善通寺市農地管理公社で３年間研修を受ける。栽培技術だけでなく、輪作体系等も学ぶ。

・研修期間中の３年間は公益財団法人の職員として給与を支給される。また、研修期間中に、農地や作業場がある家等を確保した。

就農期（平成30年～）

●認定新規就農者に

・平成30年４月、就農と同時に善通寺市の認定新規就農者となった。サニーレタス、スイートコーン、ブロッコリー、ニンニク、タマネギを栽培。作業時間の確保に苦労した。

・品目毎の栽培面積の検討やサニーレタスからナバナへ変更すること、妻の手伝い等で乗り切ることができた。

●技術の習得

・品目ごとの収益性を向上させるため、品質と収量の向上を目指す。

・ＪＡの部会を含め、各種研修会に積極的に参加した。
・上手に栽培している近隣農業者のほ場や作業を観察したり、話を聞いたりした。
・困ったときは、先輩農業者や研修元の農業者、ＪＡや普及センターに積極的に相談した。

確立期（令和３年～）

●雇用の導入

・令和３年から臨時雇用を２名導入。

・雇用を導入したことでさらなる規模拡大が可能となった。一方で、雇用者の労務管理に頭を悩ませられることもあった。

●規模拡大

・農業委員会や農地機構を通じて規模拡大を図った。

・作業性等を考慮し、一度に多くの農地を増やすのではなく、少しずつ拡大し、５年間かけて当初の倍の167ａまで拡大した。

●令和５年認定農業者に

・令和５年10月、善通寺市の認定農業者となり、より一層の農地集積や規模拡大を目指す。

・土づくりを徹底して行うことで収量・品質の向上を目指すとともに、経営規模拡大により農業所得の向上を目指す。

発展・将来構想（令和６年～）

●経営者として

・10年後の経営を見据えて、規模拡大、常時雇用の導入、新品種や新規作物の導入、高性能機械の導入、法人化等いろいろな経営改善の選択肢がある中、どれをいつ選択するかを悩むのも楽しみの一つ。

・今後、経営改善を行ううえでの経営リスクを少しでも回避・軽減するために、税理士などの専門家を積極的に活用する。

●地域との調和

・今までお世話になった地域の人々や善通寺市農地管理公社に恩返しをするために、地域の人の雇用や、善通寺市農地管理公社の研修生などを受け入れるだけでなく、消防団などの地域の活動にも積極的に参加する。

・若い農業者の一人として、地域の仲間と一緒に、農業や農地を守っていくことで地域振興に貢献したい。